

H 1 9 . 1 0 . 2 2 設楽ダム猛禽類検討会 議事概要

日 時：平成19年10月22日(月) 13時30分～15時30分

議事概要：

表 H 1 9 . 1 0 . 2 2 設楽ダム猛禽類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1.平成19年繁殖シーズンの調査結果について	・クマタカ、オオタカ、ハチクマ、サシバの調査結果について報告した。	・Bペアの8月のエサ運びについては、自分で食べやすいところに持っていくこともあるので、ここから推測するのは難しい。	・事務局：これから巣立ちのデータをとる時期があるので、これから確認したいと思っている。
	・CCDカメラによる観察状況について報告した。	・CCDの録画間隔について、前日と比べてどうかというのが把握できれば問題はないため、3分でも問題ないと思う。5月にも定点調査を行うため、何かがあればそちらで観察されると思う。その場合、時間を延長するなどの対応をすればよい。	・事務局：特になし
	・セオドライトを使った定点調査の精度検証の実施状況(対象：トビ)について報告した。	・セオドライトの調査は、トビだけでなく、クマタカを対象に実施してはどうか。	・事務局：平成20年繁殖シーズンで、クマタカを対象としたセオドライト調査を実施する。
	・その他の猛禽類の確認状況について報告した。	・ハチクマ、ツミ、オオタカ、クマタカの5種の繁殖を確認したとあるが、確認状況を教えてください。	・ツミは、平成15年にA地区で餌運びを、平成18年繁殖シーズンに巣立ち直後の幼鳥をB地区、C地区の2地域で確認している。ただし、営巣地の位置は分かっていない。
2.平成20年繁殖シーズンの調査計画について	・平成20年繁殖シーズンの調査計画について説明を行った。	・モニタリング調査が8月までということは、幼鳥の追跡は行わないということか。	・事務局：幼鳥が巣立てばその行動を追跡する。
		・幼鳥の調査については、発信器をつけるなど検討はなされているのか。	・事務局：個体を捕まえて調査をすることは考えていない。 ・委員：幼鳥を捕まえるには、相当な技術とリスクが伴う。幼鳥は確認しやすいし、目視調査で十分対応できると思う。
		・繁殖期だけでなく、冬場の行動についても、あるいは狩りの行動についても調査することが、より科学的な調査方法ではないかとも思うが、その辺の取り組みはどうか。	・事務局：調査は、各種の繁殖ステージ(求愛・造巣・産卵・抱卵～巣内育雛・巣立ち時期)にあわせて調査を実施することとし12月より実施する。